

様式1

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

- ### ⑤プログラム構成科目

1	科目
2	单位

[illegible]

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット、計算機の処理性能の向上、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会
	1-6	AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)、AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	調査データ、実験データ、ログデータ、1次データ、2次データ、データのメタ化、構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)、データ作成(ビッグデータとアノテーション)、オープンデータ
	1-3	データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)、仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など
(3) 様々なデータ利用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	データ解析: 予測、グルーピング、データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理、特化型AIと汎用AI、機械学習、今のAIで出来ることと出来ないこと
	1-5	データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、課題解決に向けた提案)、教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介
(4) 活用に当たった様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)、個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト、データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護、AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)、データバイアス、アルゴリズムバイアス、データ・AI活用における負の事例紹介、生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)
	3-2	情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)、匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データの種類(量的変数、質的変数)、データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)、代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)、データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値、相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)
	2-2	データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)
	2-3	データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)、データの集計(和、平均)、データの並び替え、ランキング、表形式のデータ(csv)

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ① データ分析やAIによる社会の変化、データ分析・AI活用領域の広がりを理解し、データ・AIを適切に活用することの価値を説明することができる。
- ② データを読み解き、他者に説明・表現し、また、データを適切に集計、加工することができる。
- ③ データ・AIを利活用、保有する上で、知っておくべきモラル、倫理、リスク、脅威について理解することができる。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和7 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	43	人
(非常勤)	41	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

2	人
---	---

③

(責任者名)	木村秀幸
(役職名)	教養・共通教育センター長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	教養・共通教育センター
------	-------------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	教養・共通教育センター規程
------	---------------

⑥ 体制の目的

教養・共通教育センターは、本学における教養教育、共通教育、入学前教育、数理・データサイエンス・AI教育等の全学共通教育に関する企画・調整・実施・改善等の業務及び関連する事業を行うことを目的とする。

⑦ 具体的な構成員

教養・共通教育センター長: 経営学部総合経営学科 教授 木村秀幸
 造形学部スマートデザイン学科 教授 林羊歯代
 造形学部建築学科 教授 高木清江
 造形学部建築学科 教授 高野盛光
 造形学部建築学科 教授 柴田悦己
 経営学部総合経営学科 教授 山崎方義
 造形学部通信教育部建築学科 教授 家田諭
 教務・学生部教務課 課長 惣田充
 教務・学生部教務課 主任 河崎智仁

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	10%
令和8年度予定	25%
令和9年度予定	40%
令和10年度予定	55%
令和11年度予定	60%

具体的な計画

本教育プログラムの構成科目「情報リテラシーⅡ」は、令和7年度以降の入学生を対象とした科目であるため、年次進行に伴い履修率は向上すると考えられるが、履修率をより向上させるため、令和8年度以降、大学ホームページ、ポータルサイトUNIPA、前後期のガイダンスを利用して本教育プログラムの履修を促す予定である。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本教育プログラムの構成科目「情報リテラシーⅡ」は、全学共通の教養科目であるため、すべての学部学科の学生が受講できる。また、「情報リテラシーⅡ」は曜日時限が異なるクラスを複数開講するなど、他の科目と授業時間が重複することが起こらないよう配慮している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

前後期のガイダンスにおいて本教育プログラムを受講する意義を伝えている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本学では、すべての学生を対象にしたリメディアル教育用のeラーニング教材「ASUドリル」を導入している。「ASUドリル」は本教育プログラムを理解するために必要な基礎学力を向上させるためにも有効である。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本教育プログラムの構成科目「情報リテラシーⅡ」においては、講義内容を理解できているか確認するため、ポータルサイトUNIPAの「テスト」で小テストを実施している。受講生は、講義終了後から翌週の講義開始までに小テストに解答する。小テストの採点結果の発表や解説は翌週の講義冒頭に行っている。また、受講生の質問等には講義終了時あるいはUNIPAの「Q & A」、電子メールなどでも対応している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

教養・共通教育センター

(責任者名) 木村秀幸

(役職名) 教養・共通教育センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
	プログラムの履修・修得状況	本教育プログラムの構成科目「情報リテラシーⅡ」は、令和7年度以降の入学生を対象とした科目であるため、令和7年度の履修率は高くはないが、履修登録者のうち80%以上の者が単位取得をしている。
	学修成果	学修成果については、「情報リテラシーⅡ」の学生による授業評価アンケートの結果及び単位修得状況を用いて評価を行う。
	学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	「情報リテラシーⅡ」の学生による授業評価アンケート、特に、設問「シラバスに示されている達成目標をどの程度達成できましたか。」及び設問「授業評価(過程・成果)は、自分の達成度に合っていましたか。」の結果により学生の内容理解度を把握する。
	学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	「情報リテラシーⅡ」の学生による授業評価アンケート、特に設問「達成目標の成果を得るために、適切な指導が行われましたか。」及び設問「授業内容・課題は、達成目標に即したものでしたか。」の結果により他の学生への推奨度を判断する。
	全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	「情報リテラシーⅡ」は後期開講科目であるため、特に後期ガイダンスにおいて本教育プログラムの意義等を伝え、履修を促す。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムの構成科目「情報リテラシーⅡ」は、令和7年度以降の入学生を対象とした科目であるため、プログラム修了者はまだ在学中である。プログラム修了者が卒業する年度以降は、キャリア支援室の進路の情報及び卒業生の進路先を対象にしたアンケートの結果を用いて、修了者の進路、活躍状況、企業等の評価について点検を行う予定である。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学の卒業生の進路先を対象にしたアンケートの結果を教育プログラムの内容の見直しに活用する。
	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	実データを用いた課題に関するグループディスカッションの中で、数理・データサイエンス・AIについて学ぶことの意義を伝えている。また、日常生活、仕事等の現場でデータ、AIが利活用される場面を紹介することにより数理・データサイエンス・AIに対する興味を深められるようにしている。
	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	教養・共通教育センターにおいて、学生による授業評価アンケート及び卒業生の進路先を対象にしたアンケートの結果、授業担当者の意見から、内容・水準を維持・向上したより「わかりやすい」授業となるよう検討を行う。